

「ヨッサー、ヨッサー」掛け声響く太鼓まつり

八幡の夏を彩る「太鼓まつり」が7月14日から18日まで行われました。「ヨッサー、ヨッサー」と威勢のいい掛け声と太鼓の音を響かせ、屋形太鼓が町内を練り歩きました。同まつりは、石清水八幡宮の撰社・高良神社の例祭で、疫病退散や豊作を願って営まれています。同神社に提灯を掲げたのが始まりとされ、約180年前(文政年間)、太鼓をのせた大きな屋形太鼓を組み、太鼓を打ち鳴らしなが



屋形太鼓を担ぎ勇壮に参道を練り歩く担ぎ手たち

屋形太鼓勇壮に

ら練り歩く姿に発展したと言われています。まつりが最高潮に達した18日夜、同神社前に二区、六区の屋形太鼓2基と子ども屋形太鼓4基の計6基が集結し、宮入りが行われました。法被姿の担ぎ手たちが屋形太鼓を力強く上下左右に揺ら振りながら約100メートルの参道を勇壮に練り歩く姿に、境内に詰めかけた観客から拍手や歓声が沸き起こっていました。

旬の野菜 親子で味わおう

京都吉兆 村上顧問招き食育



村上顧問に教わりながらニンジンを切る親子

京都吉兆松花堂店の村上寛治顧問を講師に招いて「親子食育クッキング」が7月14日、男山公民館で行われました。7組の親子連れらが参加し、地元でとれたナスなど、夏野菜を使った調理に熱心に取り組みました。

この講座は、旬の野菜のおいさを味わいながら夏休み前に親子でふれあってもらおう、と男山公民館が企画しました。

献立は、夏野菜の炊き合わせ、鱧と焼きナスのお椀、タマネギとゴボウの色ご飯、ナスの旨煮です。

村上顧問は、だしの取り方や鱧の切り方を実演。また、調理手順を説明しながら「野菜にだしのうま味をしみこませるには煮物を水で冷やすことが大事です」など、おいしく食べるための一工夫を紹介しました。

子どもたちは包丁の使い方に戸惑いながらも、親たちと力を合わせて料理を完成させました。

祖父と参加した月夜田在住の白井夏織さん(6)は「野菜がカツオ節の味がしておいしかった」と満面の笑みを浮かべていました。

まちの話題

中高生個人プロの音色学ぶ

京都フィルが吹奏楽クリニック

京都フィルハーモニー室内合奏団による吹奏楽クリニックが7月16日、市文化センターでありました。市内の中学高校吹奏楽部員約150人があこがれのプロ奏者13人から直接手ほどきを受けました。同クリニックは市文化センターの主催で、夏の府吹奏楽コンクールに向けて練習に励む中高生の演奏技術向上が狙いです。

生徒たちはフルート、トランペット、クラリネットなど13種の楽器ごとに分かれ、それぞれ奏者から約2時間半の指導を受けました。奏者たちは基本的な演奏姿勢の説明に加え「楽器を押し出すイメージで吹いた方がのびやかな音色になる」など、息の出し方や指の使い方などを実演しながらアドバイスしました。



演奏の指導を受ける生徒たち

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

J選手と小学生 ミニゲームで交流

京都サンガF.C. サッカー教室 華麗なドリブル、パスに歓声

J2リーグで活躍する京都サンガF.C.によるサッカー教室が7月5日、中央小学校で行われました。参加した5、6年生97人はプロサッカー選手の華麗な技に大はしゃぎでした。

サンガは、プロ選手との交流を通じてスポーツのすばらしさなどを伝えようと、地域の小学校でスポーツアカデミーを開催しています。この日は、U-19日本代表の久保裕也選手や伊藤優汰選手らが来校しました。

同教室は選手を交え、各学年の男女別に対戦するミニゲームを中心に実施されました。児童たちは選手の巧みなドリブルやパスに大歓声。「マークについて、抜かれるな」などと大きな声を掛け合い、一生懸命ボールを追いかけていました。

同小6年の杉本翔誠くん(12)は「ドリブルスピードなど、トップレベルは凄かった。今日の体験を励みにこれからも頑張って練習したい」と大満足でした。



京都サンガF.C.の久保選手を交えて試合を楽しむ児童